

中小企業景況調査報告書

令和6年1月～令和6年3月期実績 / 令和6年4月～6月期見通し

令和6年4月

宮崎県商工会連合会

中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会が中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。本県分の調査結果は次のとおりです。

1. 調査対象期間

令和6年1月～令和6年3月期を対象とし、調査は令和6年2月16日から3月1日の間に実施しました。なお、令和6年4月～6月期は予測値となります。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

3. 対象地区

清武町、中郷、北郷町、三股町、えびの市、綾町、都農町、川南町、椎葉村、日之影町の10商工会地区。

4. 回答企業数

150企業のうち、143企業の回答を得た(有効回答率95.3%)。

業種	調査対象企業数(%:構成比)		有効回答企業数(%:構成比)		有効回答率(%)
製造業	35	23.3%	34	23.8%	97.1%
建設業	21	14.0%	20	14.0%	95.2%
小売業	39	26.0%	34	23.8%	87.2%
サービス業	55	36.7%	55	38.5%	100.0%
合計	150	100.0%	143	100.0%	95.3%

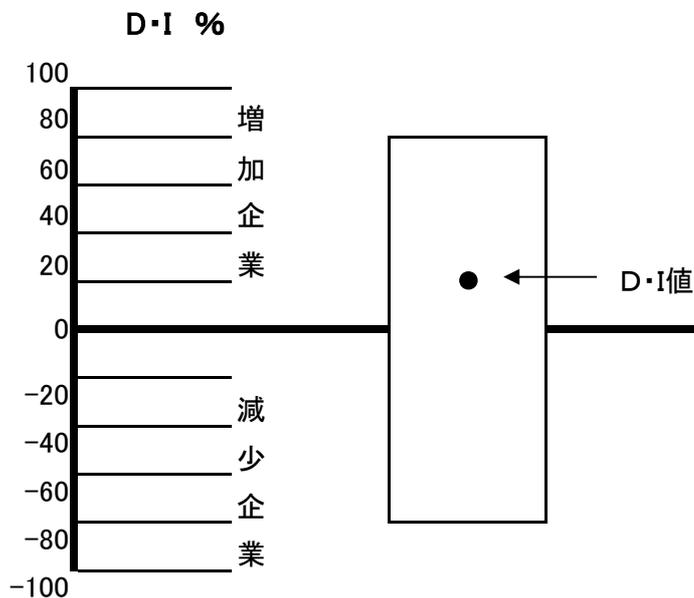
5. その他

(1) D・I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



(2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

DI値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

I 全産業全体の状況

主要景気動向指数(D・I)

項目	令和5年	令和5年	令和5年	令和5年	令和6年	令和6年
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	2.2	5.9	9.0	16.0	5.9	7.8
採算	▲21.5	▲6.0	▲14.7	▲7.0	▲14.9	▲6.8
資金繰り	▲8.0	▲5.9	▲10.3	▲5.1	▲3.5	▲1.4
業況	▲11.6	2.5	▲10.5	4.5	▲8.6	3.1

いずれも前年同期と比較したものの。

<主要景況項目の概況>

◎売上高

今期(令和6年1月～令和6年3月)の売上高のD・Iは、5.9ポイントとなって、直前四半期の16.0ポイントより悪化した。建設業は改善したが、製造業は横ばい、小売業、サービス業は悪化した。来期については、7.8ポイントと改善を見込んでいる。

◎採算

採算のD・Iは、▲14.9ポイントとなっており、直前四半期の▲7.0ポイントより悪化した。建設業は横ばいであったが、製造業、小売業、サービス業は悪化した。来期については、▲6.8ポイントと当期より改善を見込んでいる。

◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲3.5ポイントで、直前四半期の▲5.1ポイントより改善した。建設業、サービス業で改善したが、製造業は横ばい、小売業は悪化した。来期については、▲1.4ポイントと、当期より改善を見込んでいる。

◎業況

業況のD・Iは、▲8.6ポイントで、前期より悪化した。来期は3.1ポイントと改善を見込んでいる。

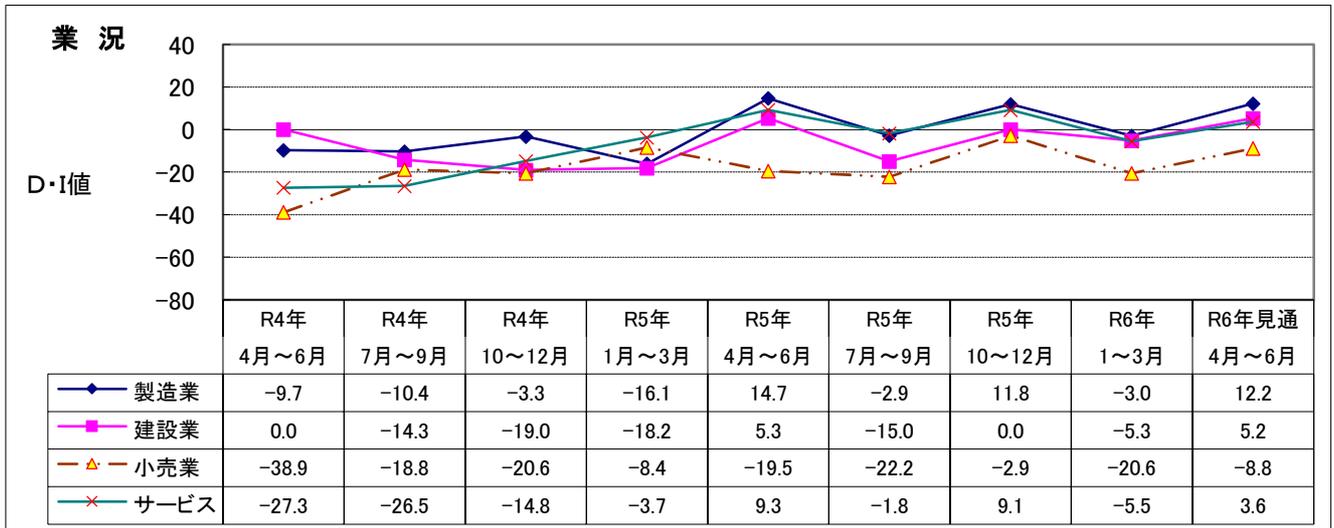
内閣府の令和6年3月発表の月例経済報告では、「景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締に伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。」としている。

日本銀行宮崎事務所の4月1日付の宮崎県金融経済概況では、「宮崎県の景気は、緩やかに回復している。すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに回復している。観光は、緩やかに回復している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。生産は、弱めの動きとなっている。企業部門の動向を短観(3月<鹿児島・宮崎両県集計分>)でみると、設備投資は、増加している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。」としており、基調判断は、持ち直しの動きにあるとしている。

製造業	売上、資金繰りは横ばい、採算は悪化という結果となった。次期の見通しは、売上、資金繰り、採算ともに改善を見込んでいる。
建設業	完成工事額、資金繰りは改善、採算は横ばいという結果になった。次期の見通しは、採算は改善、完成工事額、資金繰りは悪化と見込んでいる。
小売業	売上、採算、資金繰りともに悪化という結果となった。次期の見通しは、売上は改善、採算は悪化、資金繰りは横ばいと見込んでいる。
サービス業	売上、採算は悪化、資金繰りは改善という結果となった。次期の見通しは、売上は悪化、採算、資金繰りは改善と見込んでいる。

＜経営上の問題点について＞

製造業は「原材料価格の上昇」、建設業は「材料価格の上昇」、小売業は「仕入れ単価の上昇」、サービス業は「材料等仕入単価の上昇」と全ての業種で、仕入コストの上昇が前回同様、1位となっている。企業間物価の上昇は続いており、大手企業では価格への転嫁が進められているが、価格転嫁力の弱い中小零細企業にとっては、価格に転嫁できるかどうか課題となっている。

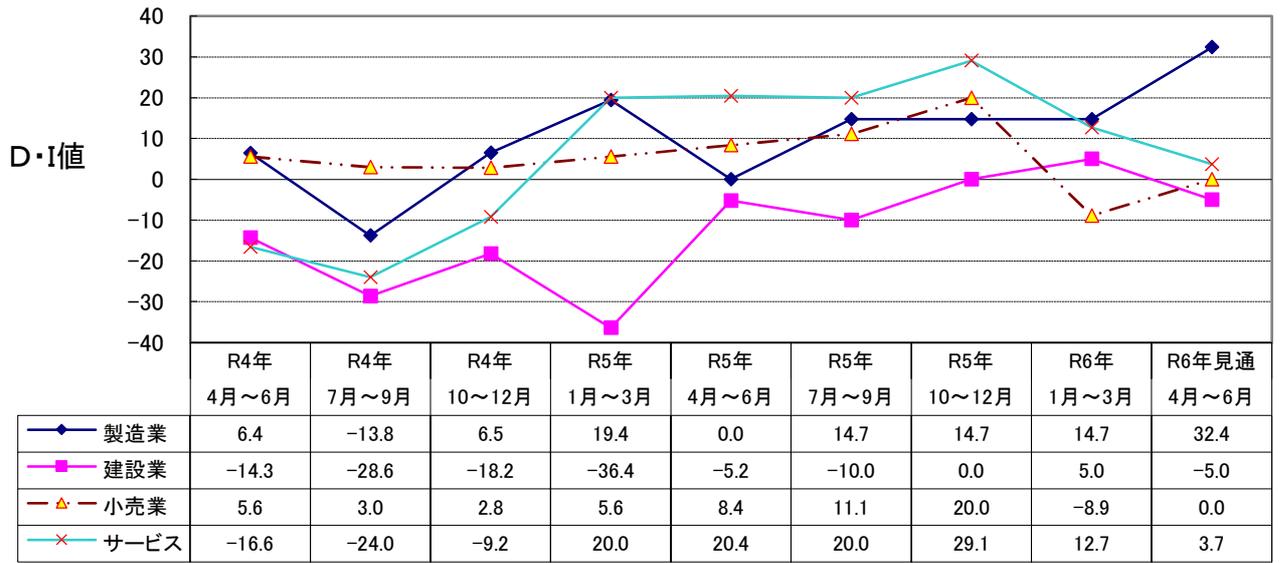


(業況天気図)

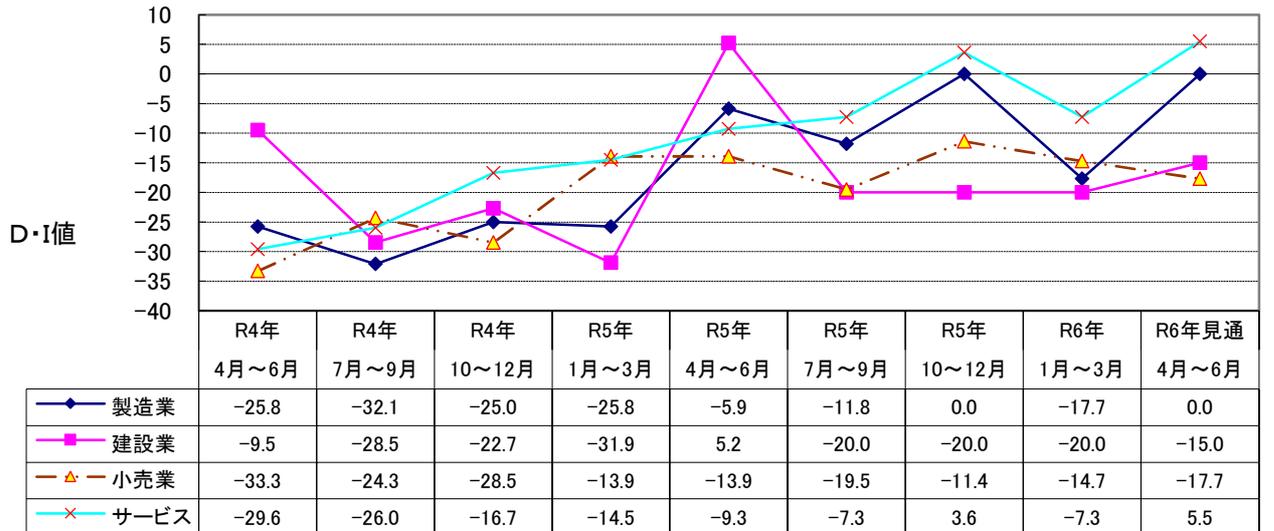
業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
1月から3月 実績				
D・I値	▲ 3.0	▲ 5.3	▲ 20.6	▲ 5.5
4月から6月 見通し				
D・I値	12.2	5.2	▲ 8.8	3.6
傾向	↗	↗	↗	↗

(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

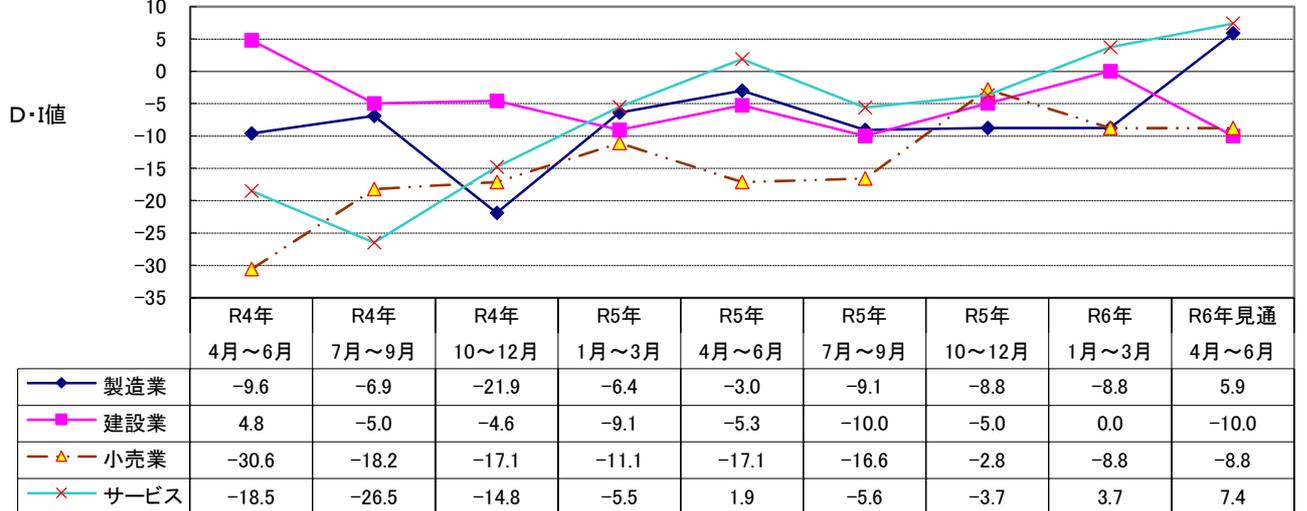
売上額(加工・完成)の推移



採算の推移(経常利益)



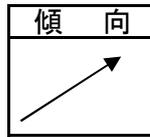
資金繰り



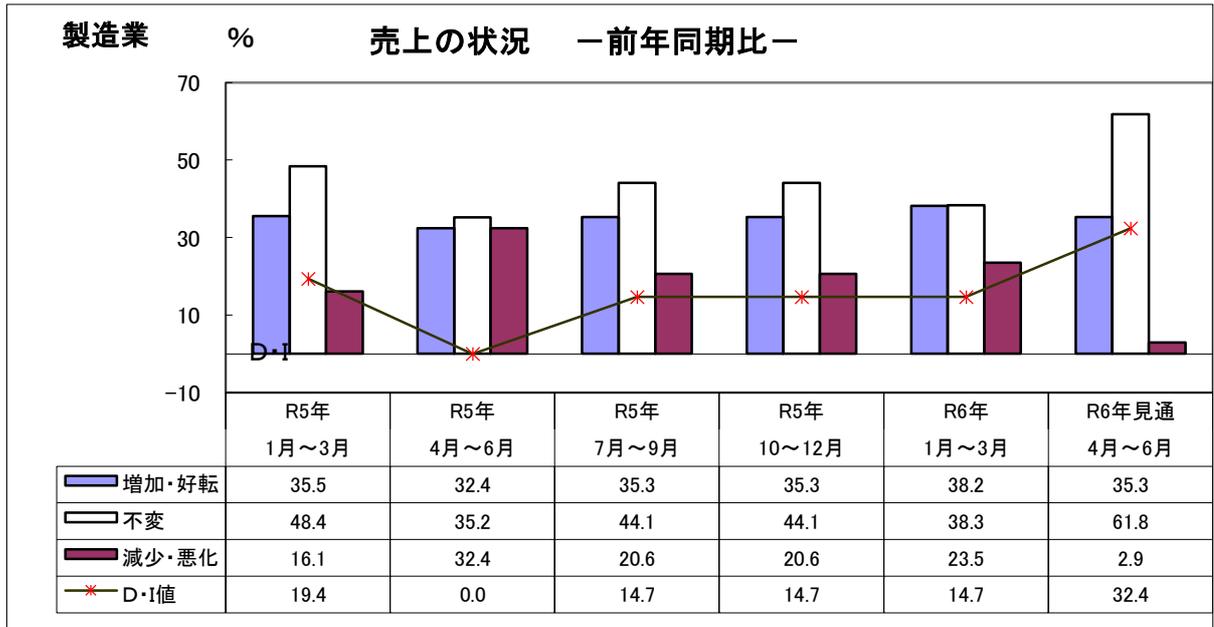
II 製造業の景況

(1) 売上(加工)額の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
	
うす曇 14.7	晴 32.4



当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」の企業は増加したが、「減少・悪化」とする企業も増加したため、D・Iは14.7ポイントと、前期と同じであった。次の四半期は「増加・好転」の企業は減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期より改善する見込みとなっている。

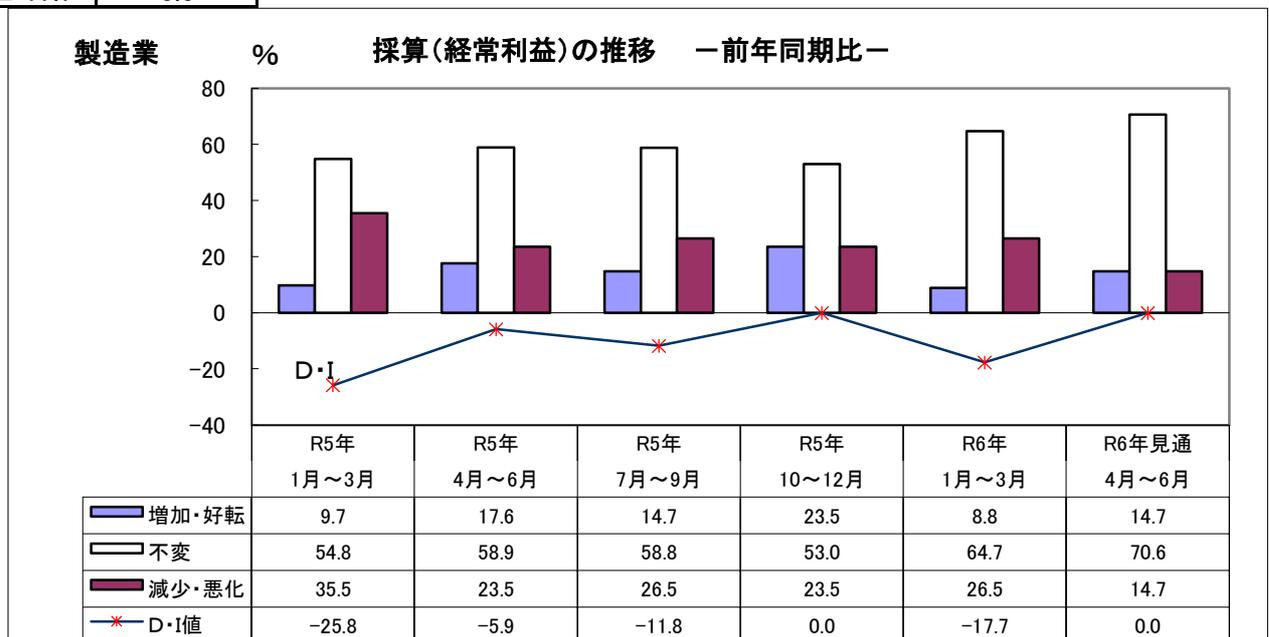


(2) 採算(経常利益)の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨 ▲ 17.7	うす曇 0.0



当期の採算のD・Iは、-17.7ポイントで、直前四半期の数値より悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期は、「増加・好転」の企業は増加し、「減少・悪化」の企業は減少するため、採算のD・Iは、当期より改善する見込みとなっている。

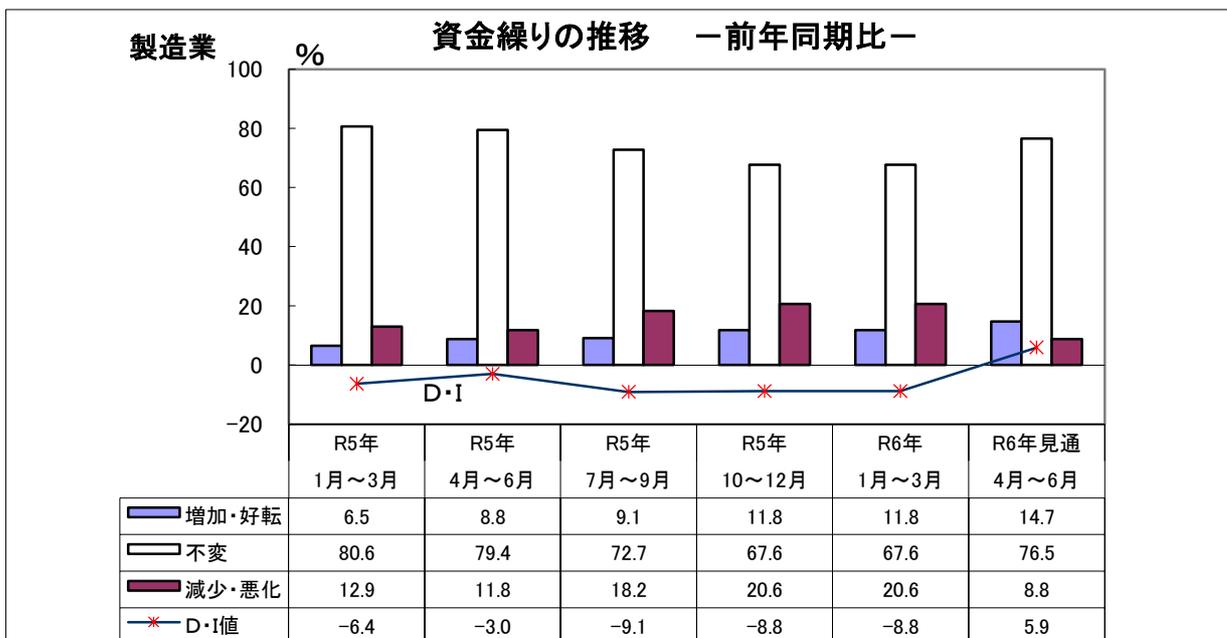


(3) 資金繰りの推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
	
▲ 8.8	5.9

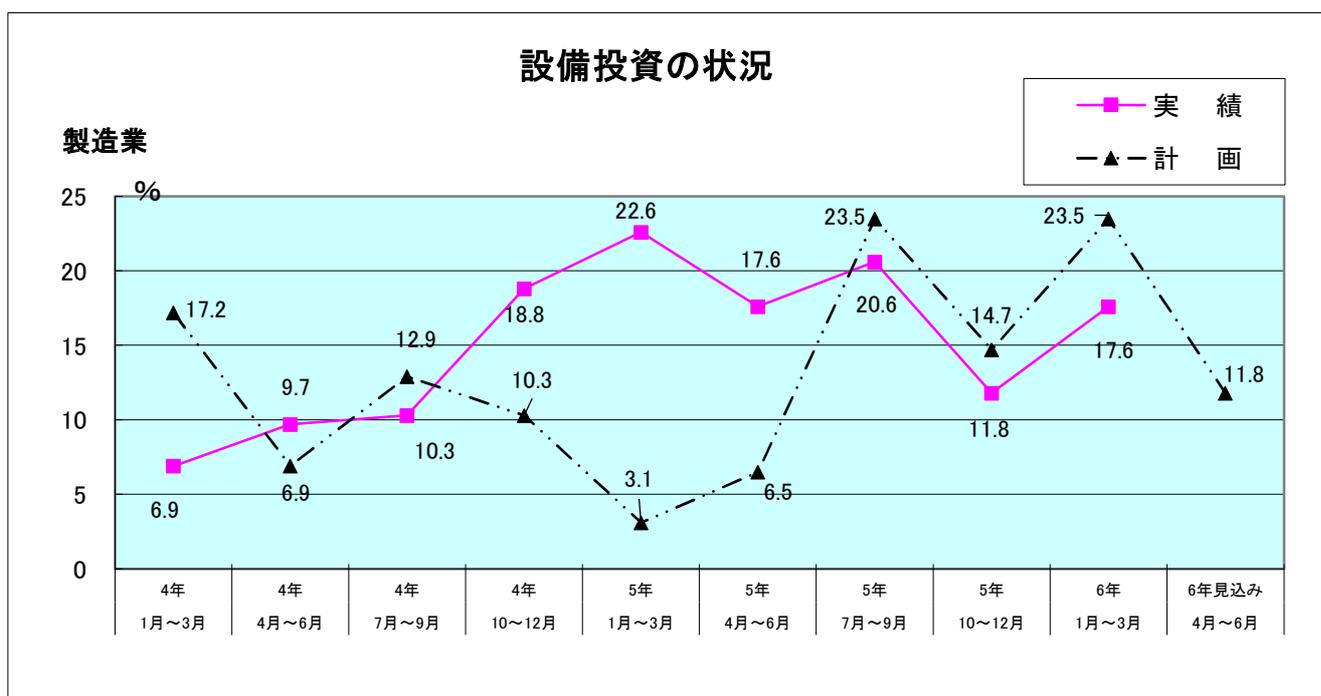


当期の資金繰りのD・Iは、-8.8ポイントとなり、前期と同じであった。「増加・好転」の企業と、「減少・悪化」の企業ともに横ばいであったためである。次の四半期は、「増加・好転」の企業は増加し、「減少・悪化」の企業は減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善を見込んでいる。



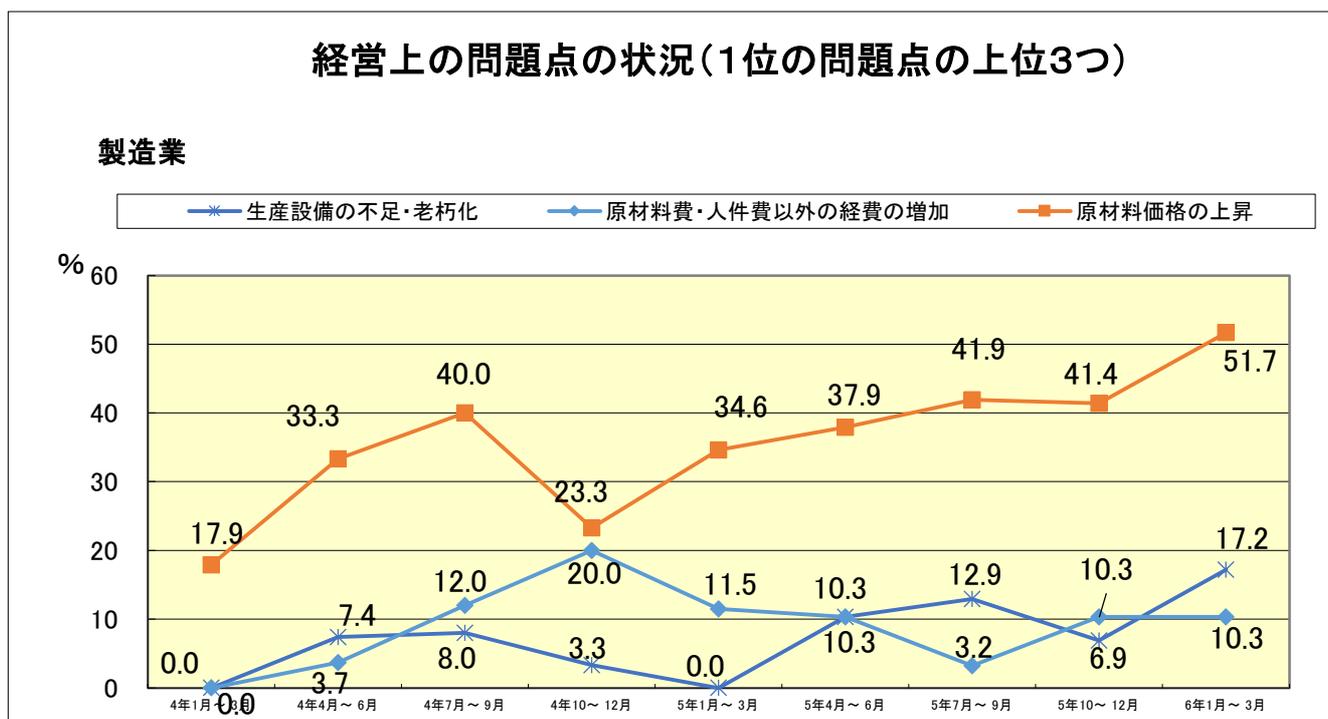
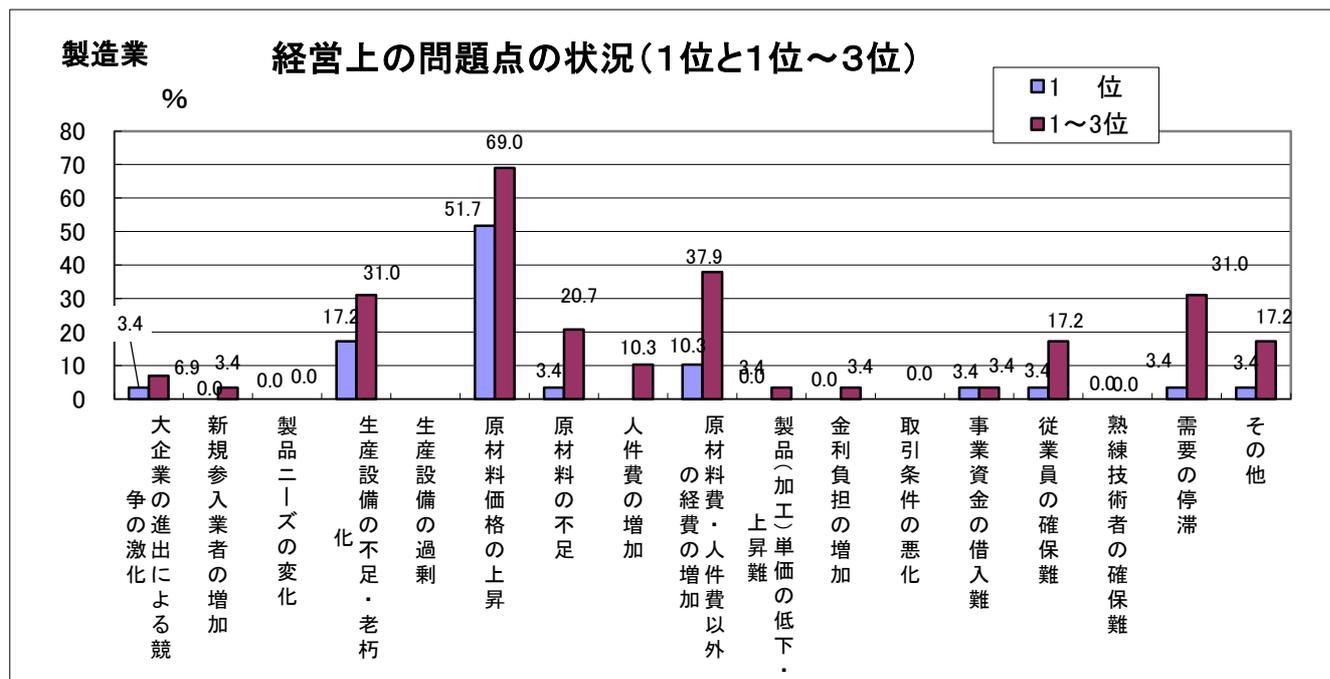
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は23.5%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は17.6%となり、実績は計画を下回った。次の四半期は11.8%の企業が計画している。内容は生産設備、土地、工場建物、OA機器となっている。



(5) 経営上の問題点

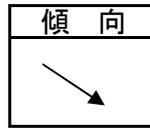
経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が「原材料価格の上昇」となり、2位が、「生産設備の不足・老朽化」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が「原材料価格の上昇」、2位が、「原材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」、「生産設備の不足・老朽化」となった。今回の調査でも1位グループ、1位～3位グループともに「原材料価格の上昇」が1位となった。



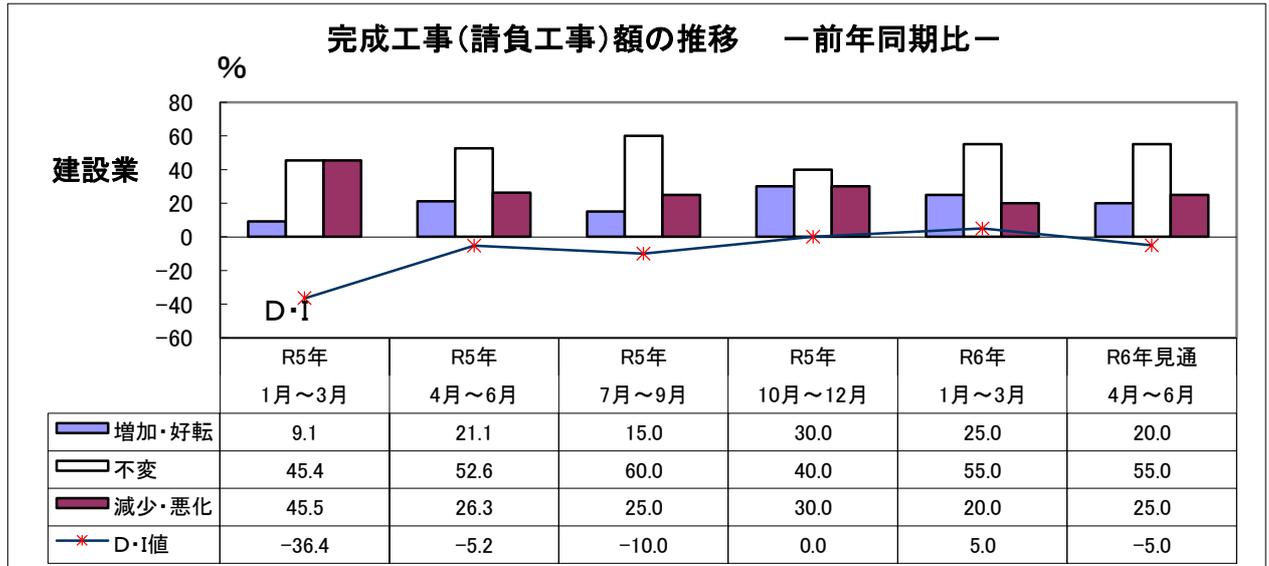
Ⅲ 建設業の景況

(1) 完成工事額の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
	
うす曇	曇
5.0	▲ 5.0

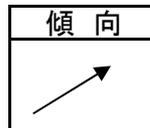


当期の完成工事額のD・Iは、5.0ポイントとなり、前期より改善した。「増加・好転」とする企業は減少したが、「減少・悪化」とする企業も減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業は減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、完成工事額のD・Iは、当期より悪化する見込みとなっている。

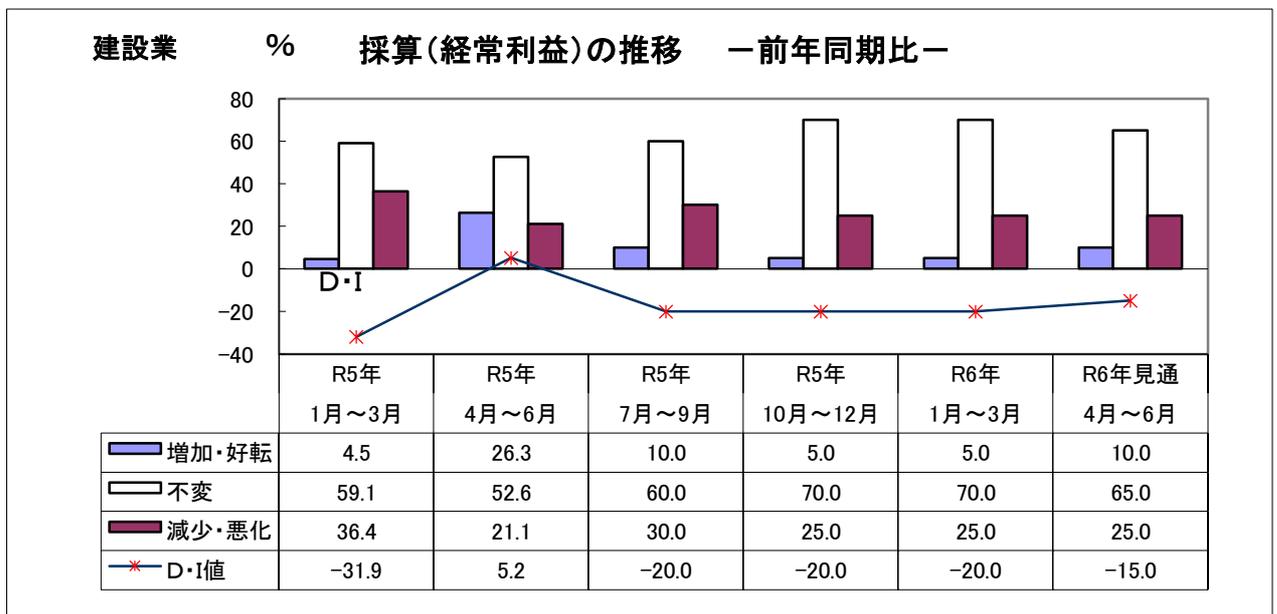


(2) 採算(経常利益)の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨	曇
▲ 20.0	▲ 15.0

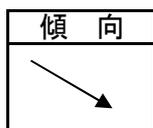


当期の採算のD・Iは、-20.0ポイントで前期と同じであった。「増加・好転」とする企業、「減少・悪化」とする企業ともに横ばいであったためである。次の四半期は、「減少・悪化」とする企業は横ばいで、「増加・好転」とする企業が増加するため、D・Iは改善を見込んでいる。

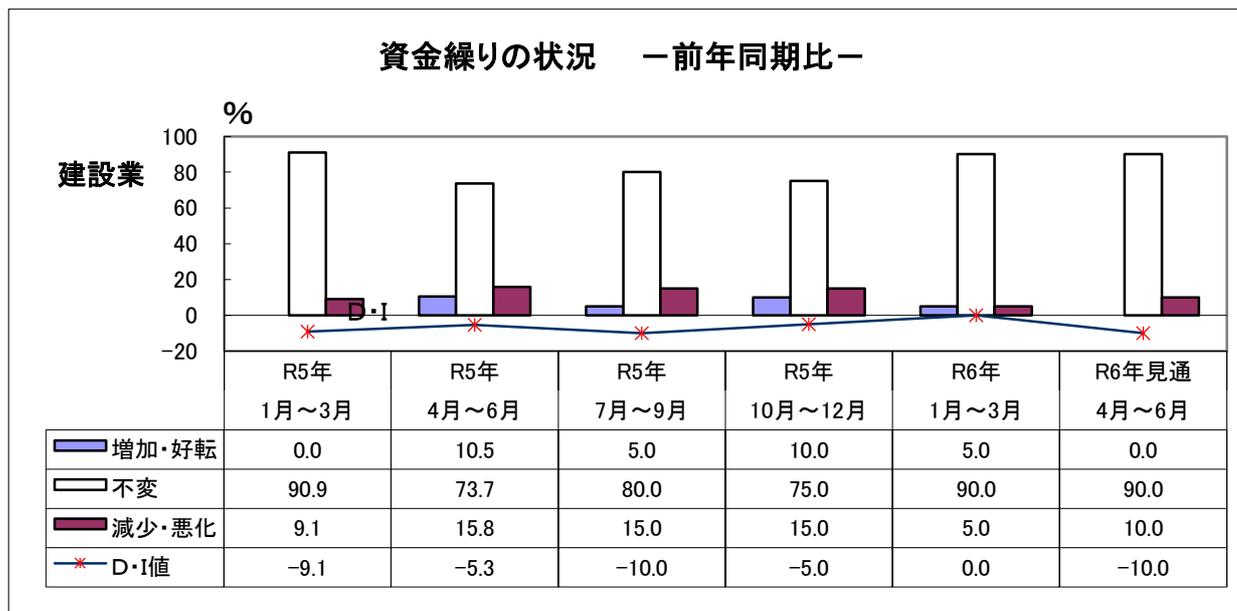


(3) 資金繰りの推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
うす曇	曇
0.0	▲ 10.0

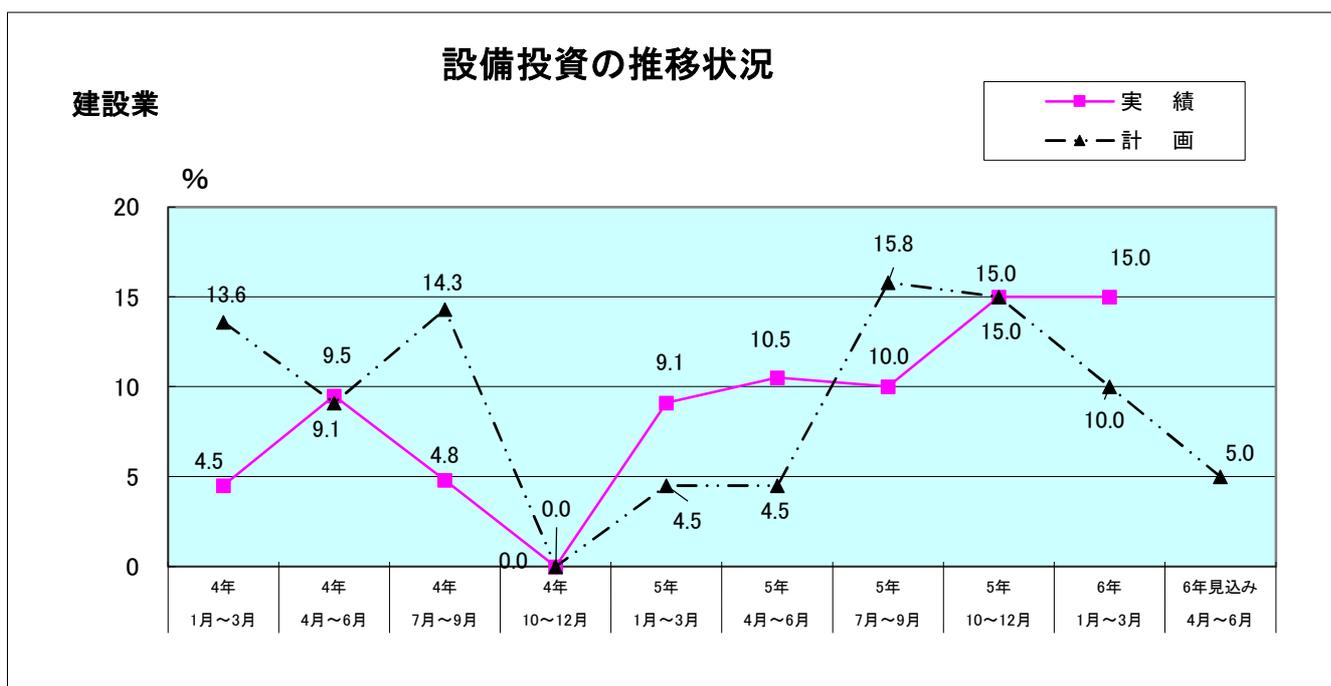


資金繰りのD・Iは0.0ポイントと、前期より改善した。「増加・好転」とする企業は減少したが、「減少・悪化」とする企業も減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」とする企業は減少し、「減少・悪化」とする企業は増加するため、D・Iは、当期より悪化すると見込んでいる。



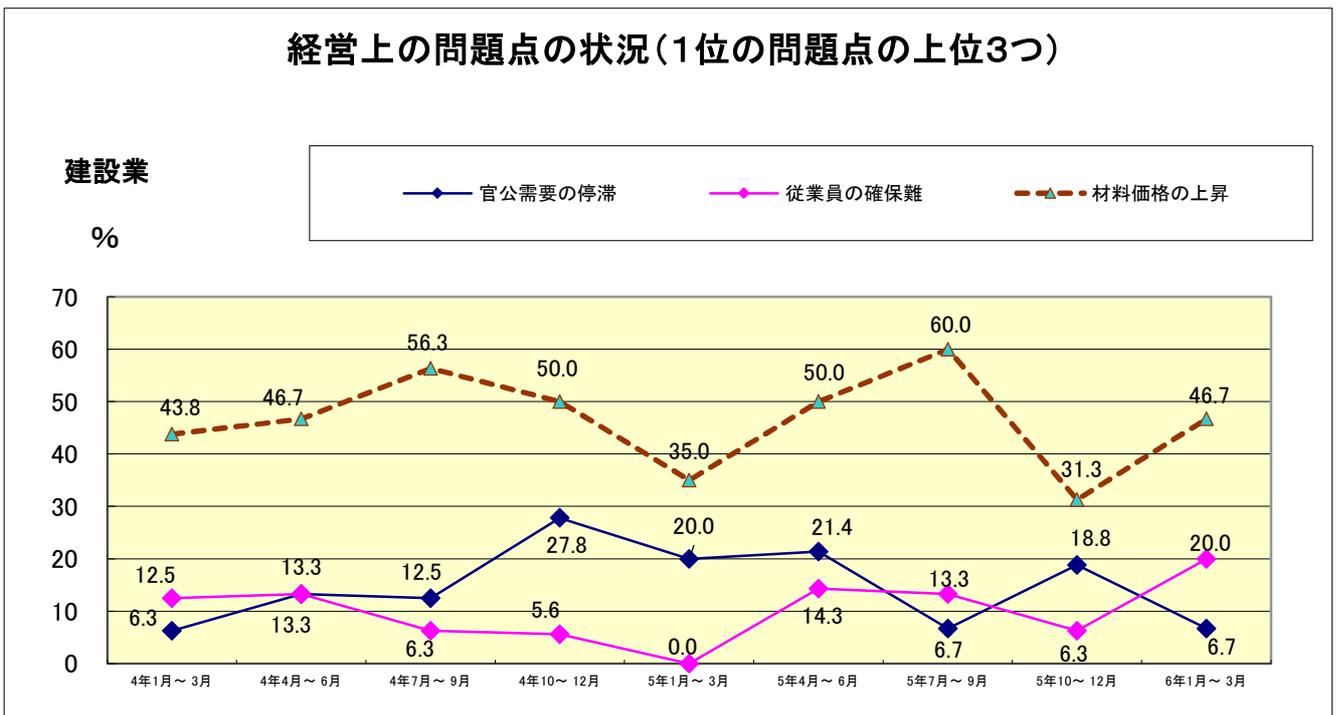
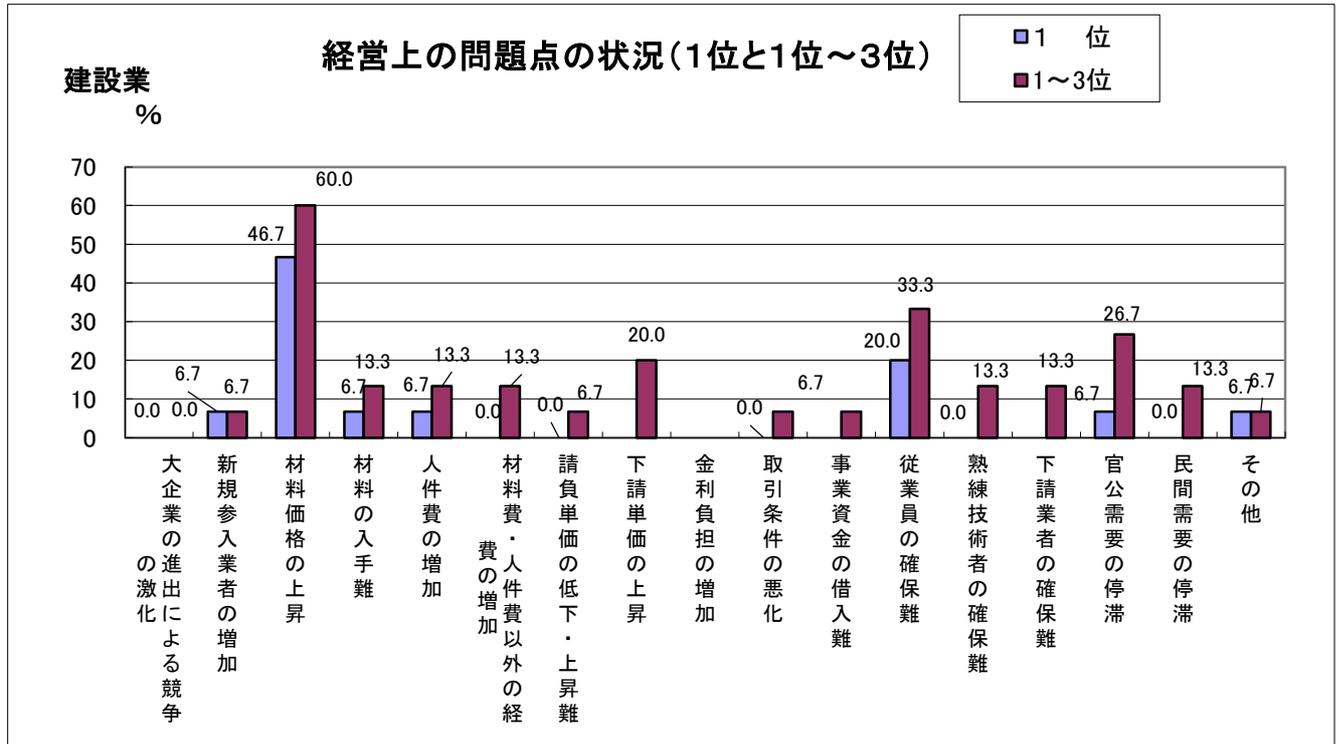
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は10.0%で、実際に投資を行った企業は、15.0%と計画を上回った。次の四半期に設備投資を計画している企業は5.0%で、内容は建設機械、車両・運搬具となっている。



(5) 経営上の問題点

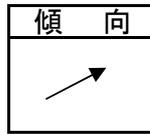
経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が同率で「新規参入業者の増加」、「材料の入手難」、「人件費の増加」、「官公需用の停滞」、「その他」となっている。(1位～3位グループ)は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が、「官公需用の停滞」となった。前回の調査結果同様、「材料価格の上昇」が1位となっている。



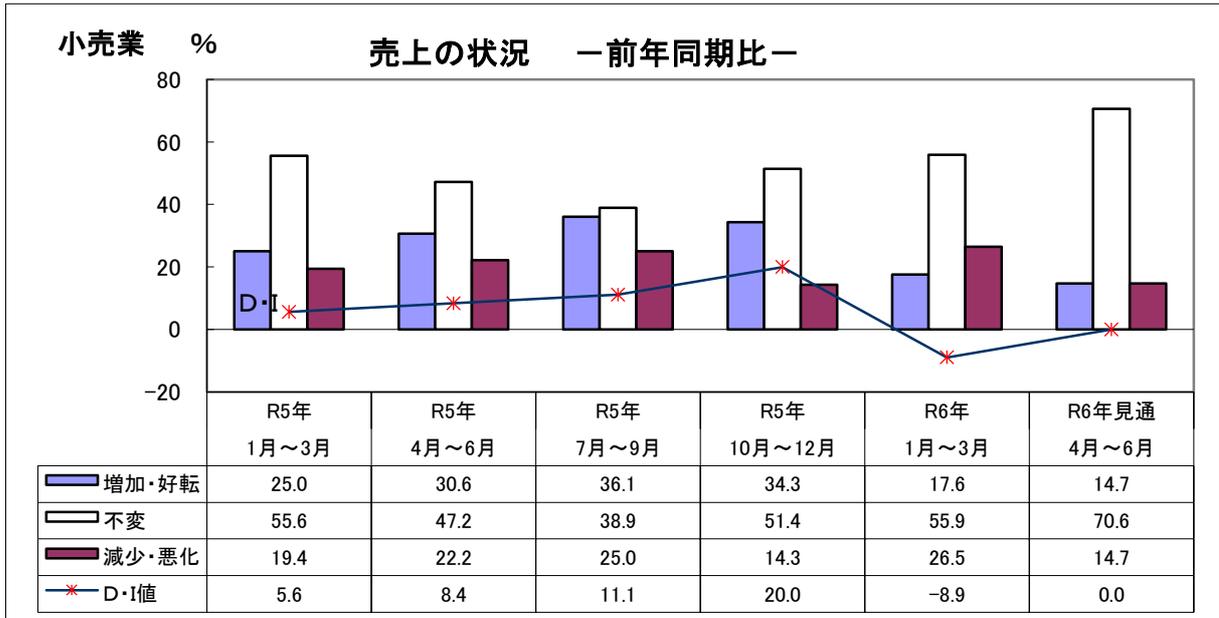
IV 小売業の景況

(1) 売上額の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
曇	うす曇
▲ 8.9	0.0

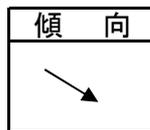


当期の売上のD・Iは-8.9ポイントで、直前期の20.0ポイントより悪化した。「増加・好転」とする企業は減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期は、「増加・好転」の企業は減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは改善を見込んでいる。

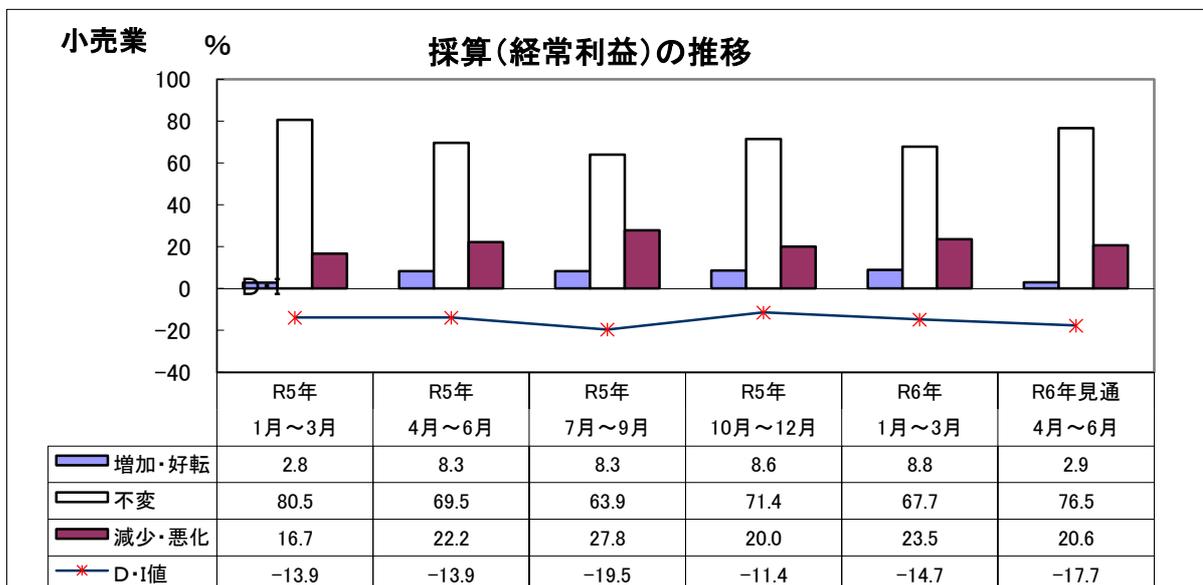


(2) 採算(経常利益)の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
曇	曇時々雨
▲ 14.7	▲ 17.7

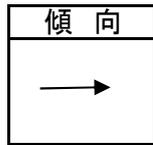


当期の採算のD・Iは-14.7ポイントで、前期より悪化した。「増加・好転」とする企業は若干増加したが、「減少・悪化」とする企業も増加したためである。次の四半期は、「減少・悪化」の企業は減少するが、「増加・好転」とする企業も減少するため、D・Iは当期より悪化すると見込んでいる。

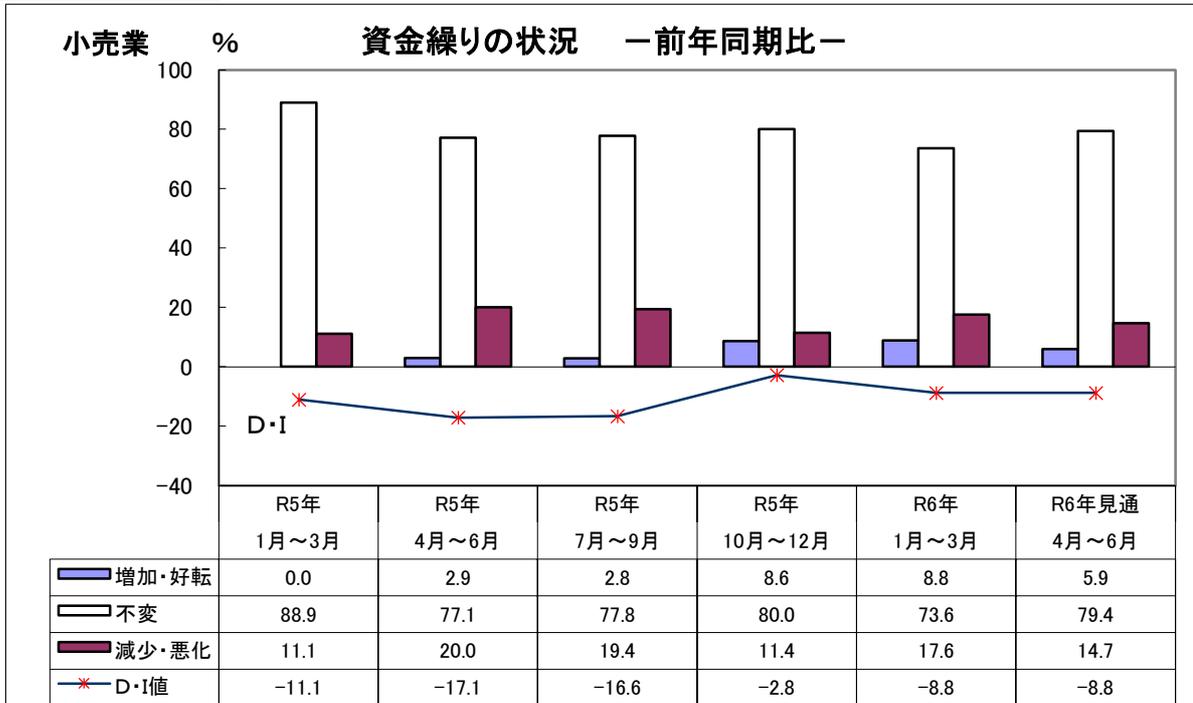


(3) 資金繰りの推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
曇	曇
▲ 8.8	▲ 8.8

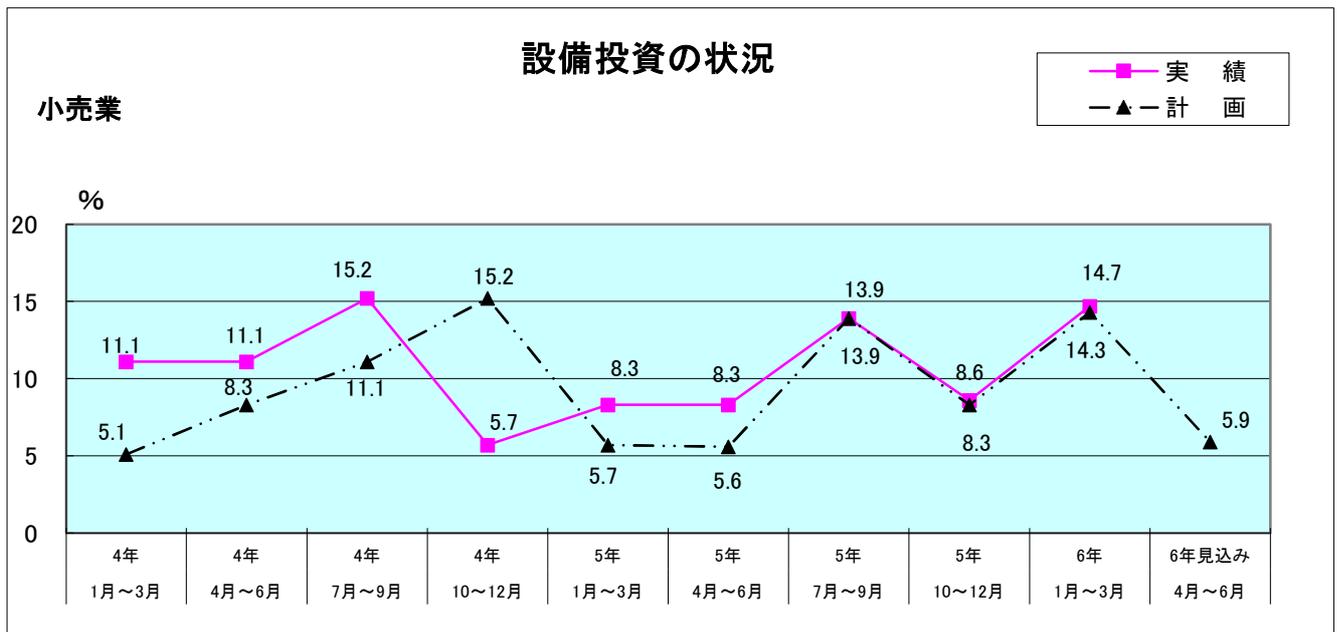


当期の資金繰りのD・Iは-8.8ポイントで、直前期より悪化した。「増加・好転」とする企業は、ほぼ横ばいで、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次期四半期は、「減少・悪化」の企業は減少するが、「増加・好転」の企業も減少するため、D・Iは横ばいを見込んでいる。



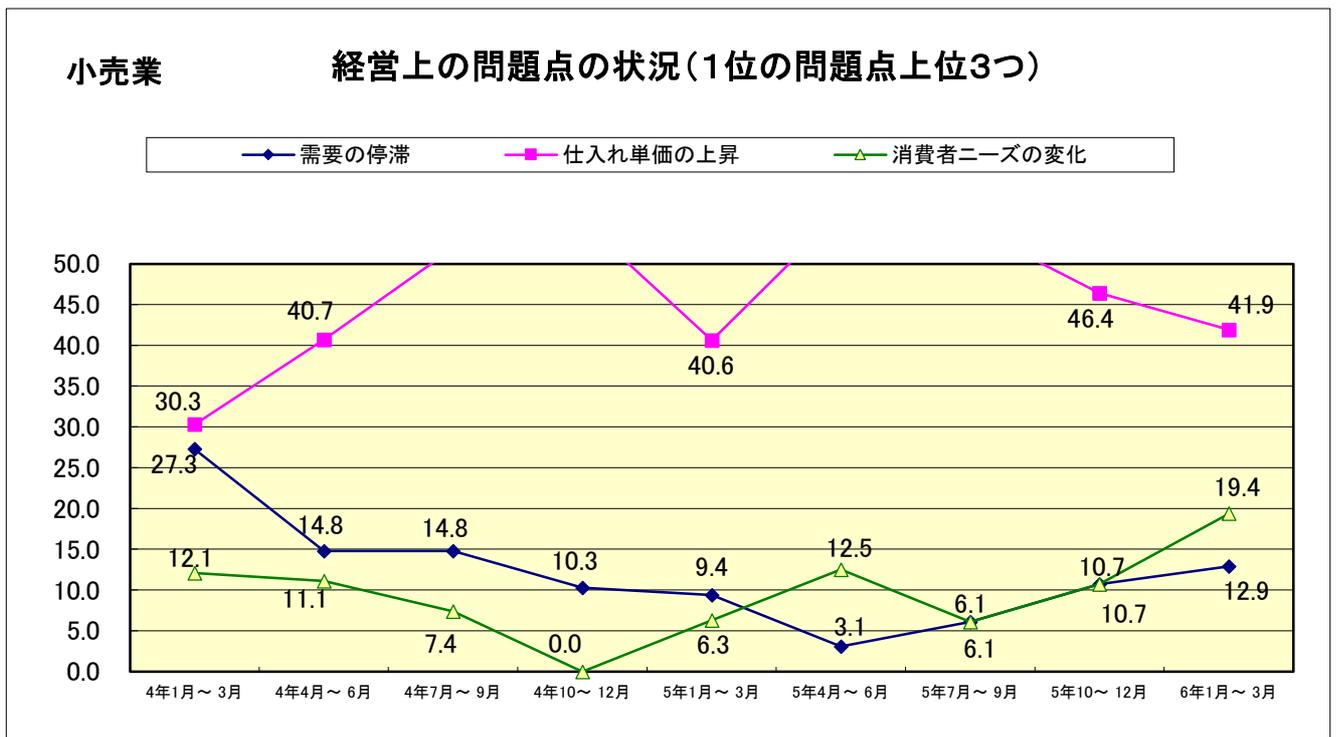
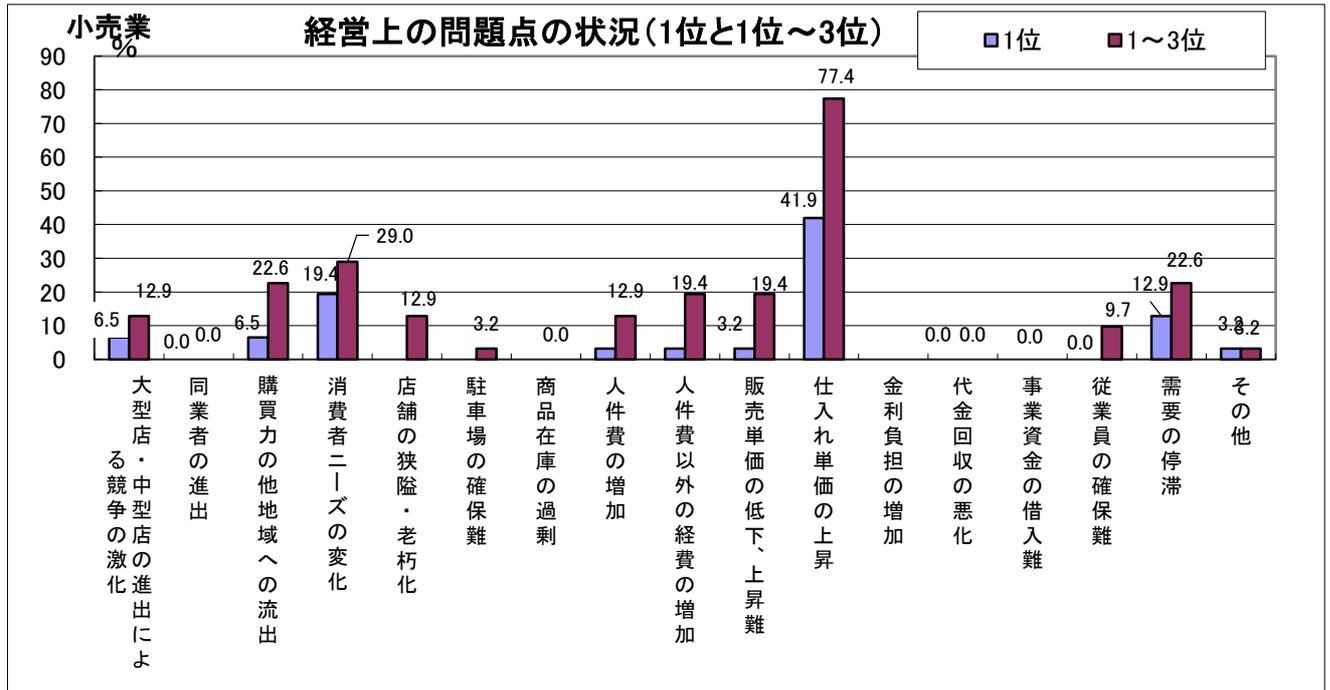
(4) 設備投資の推移

設備投資は14.3%の企業が計画し、実際に実施した企業は14.7%と若干上回った。投資対象は、付帯施設、店舗、販売設備、その他となっている。次の四半期の見通しは、設備投資を計画している企業は5.9%となっている。



(5) 経営上の問題点

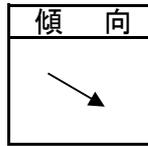
経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「仕入れ単価の上昇」、2位が「消費者ニーズの変化」、3位が「需要の停滞」であった。(1位から3位グループ)では、1位が「仕入れ単価の上昇」、2位が「消費者ニーズの変化」、3位が同率で、「購買力の他地域への流出」、「需要の停滞」であった。前回から引き続き、「仕入れ単価の上昇」が1位となっている。



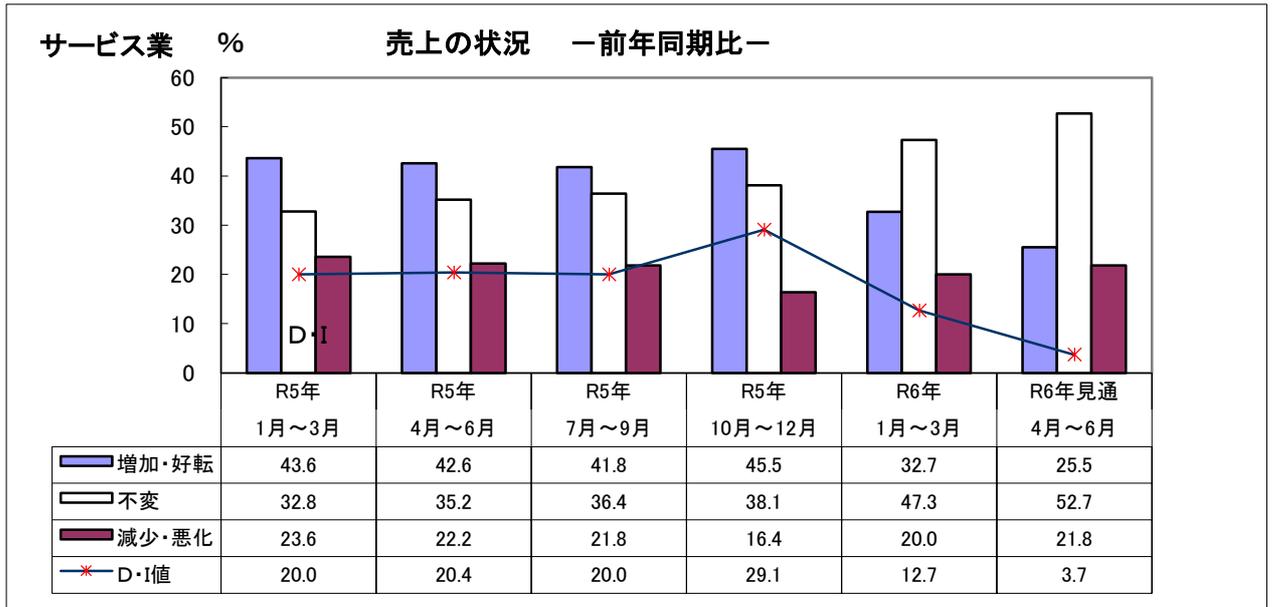
V サービス業の景況

(1) 売上額の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
うす曇	うす曇
12.7	3.7



当期の売上のD・Iは、12.7ポイントと前期より悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期も「増加・好転」の企業は減少し、「減少・悪化」の企業は増加するため、D・Iは当期より悪化を見込んでいる。

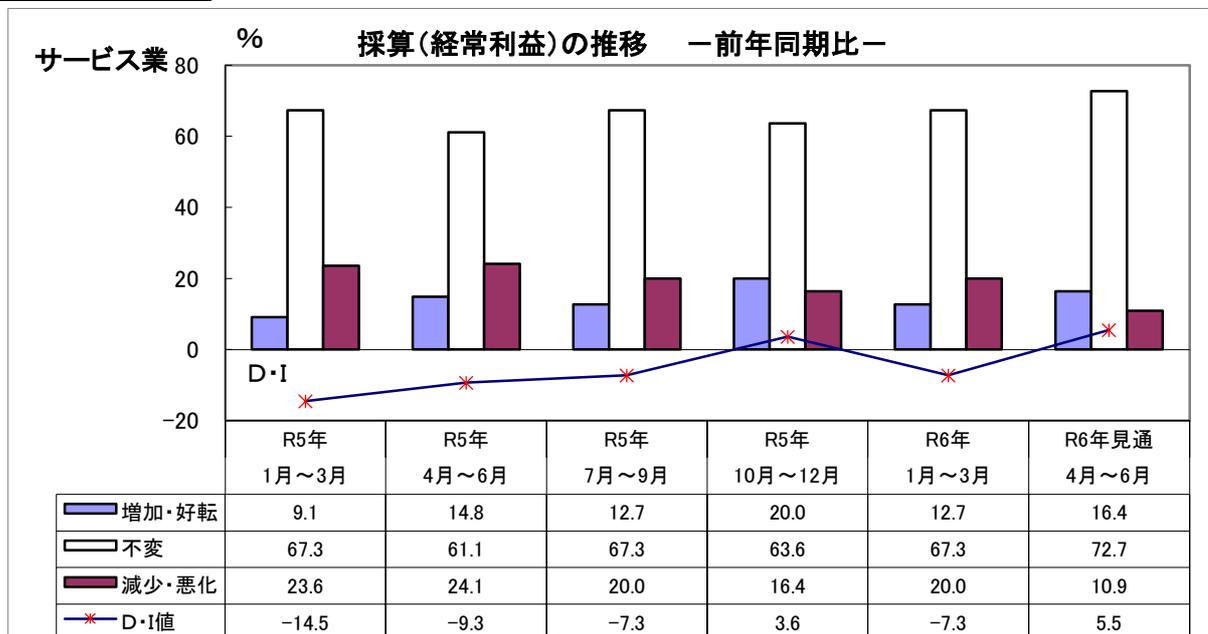


(2) 採算(経常利益)の推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
曇	うす曇
▲ 7.3	5.5

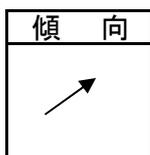


当期の採算のD・Iは、-7.3ポイントで、前期より悪化した。「増加・好転」の企業は減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は増加し、「減少・悪化」の企業は減少するため、D・Iは当期より改善すると見込んでいる。

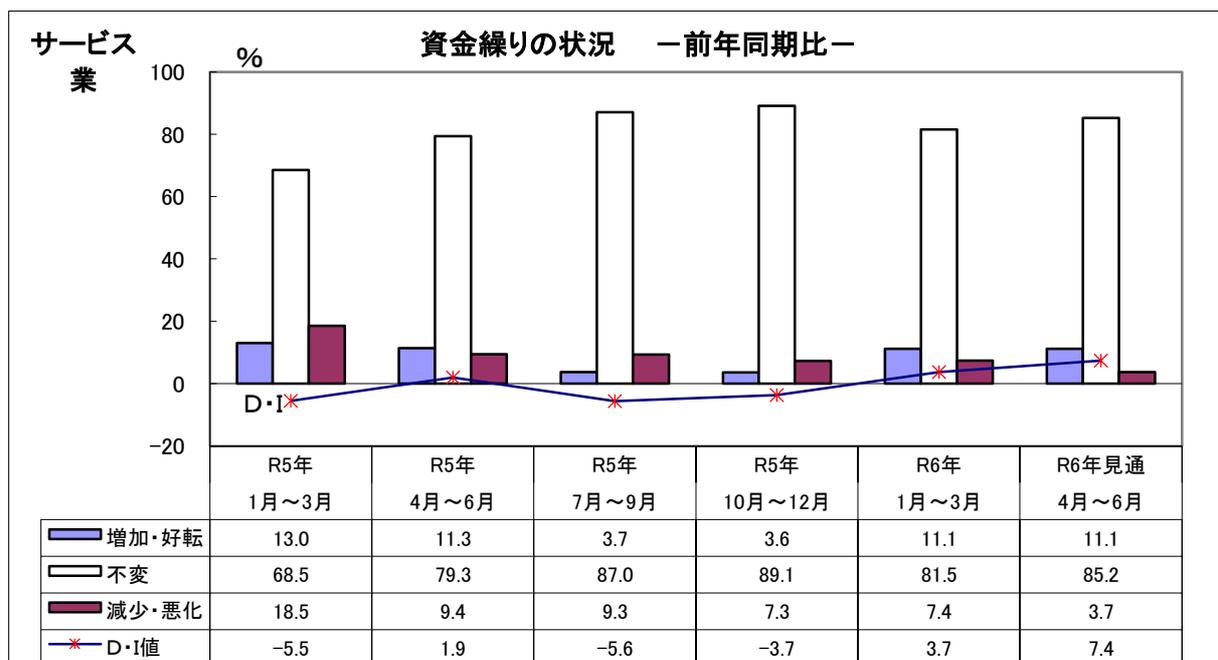


(3) 資金繰りの推移

6年1月～3月 (実績)	6年4月～6月 (見通し)
うす曇	うす曇
3.7	7.4

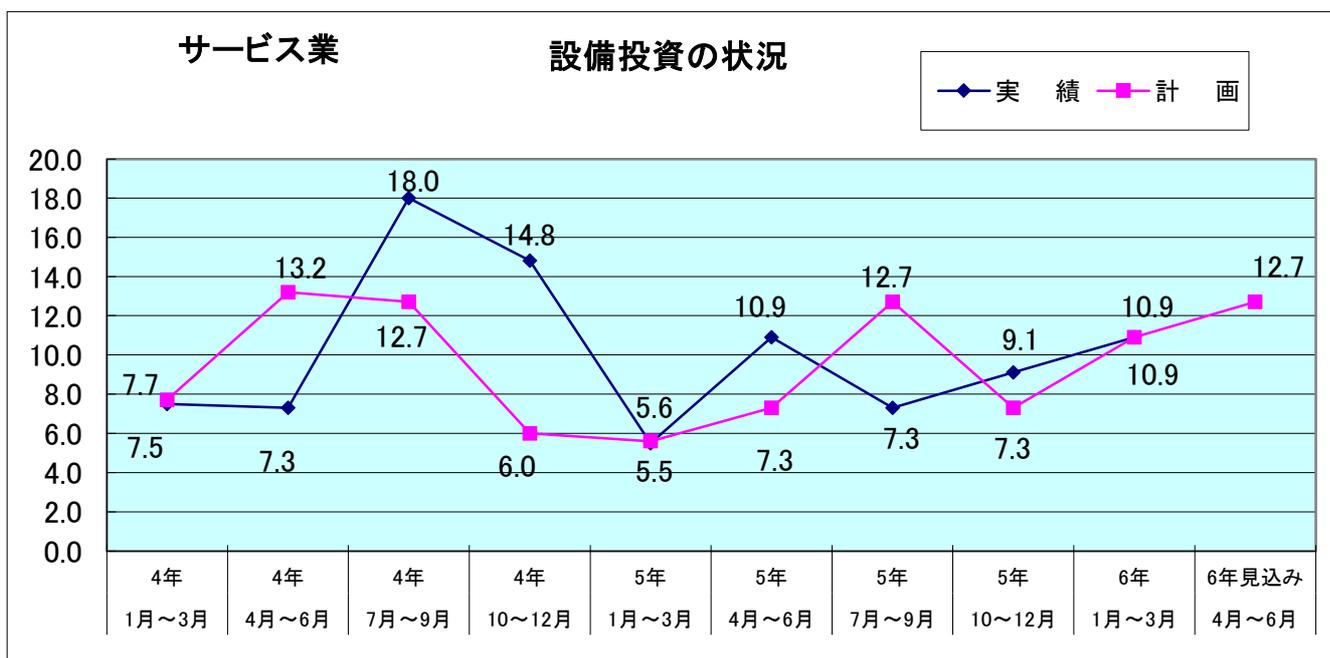


当期の資金繰りのD・Iは、3.7ポイントと前期より改善した。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業は、ほぼ横ばいであったためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は横ばいで、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善を見込んでいる。



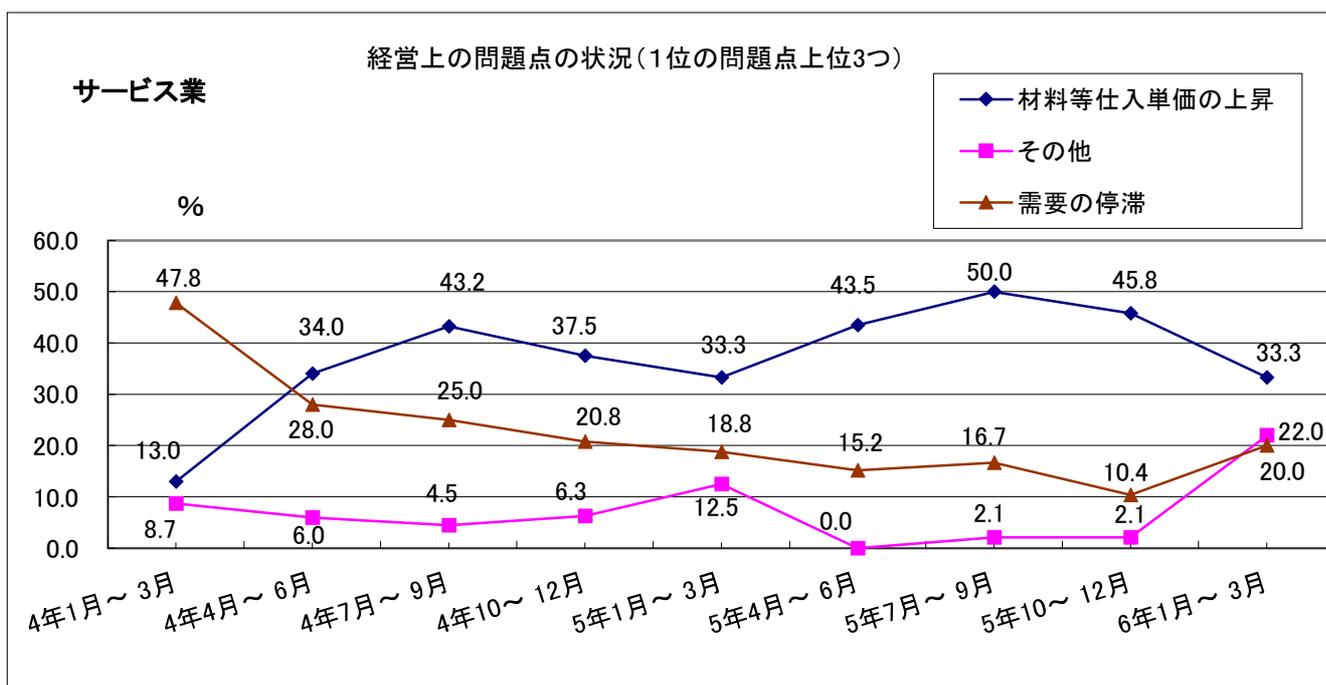
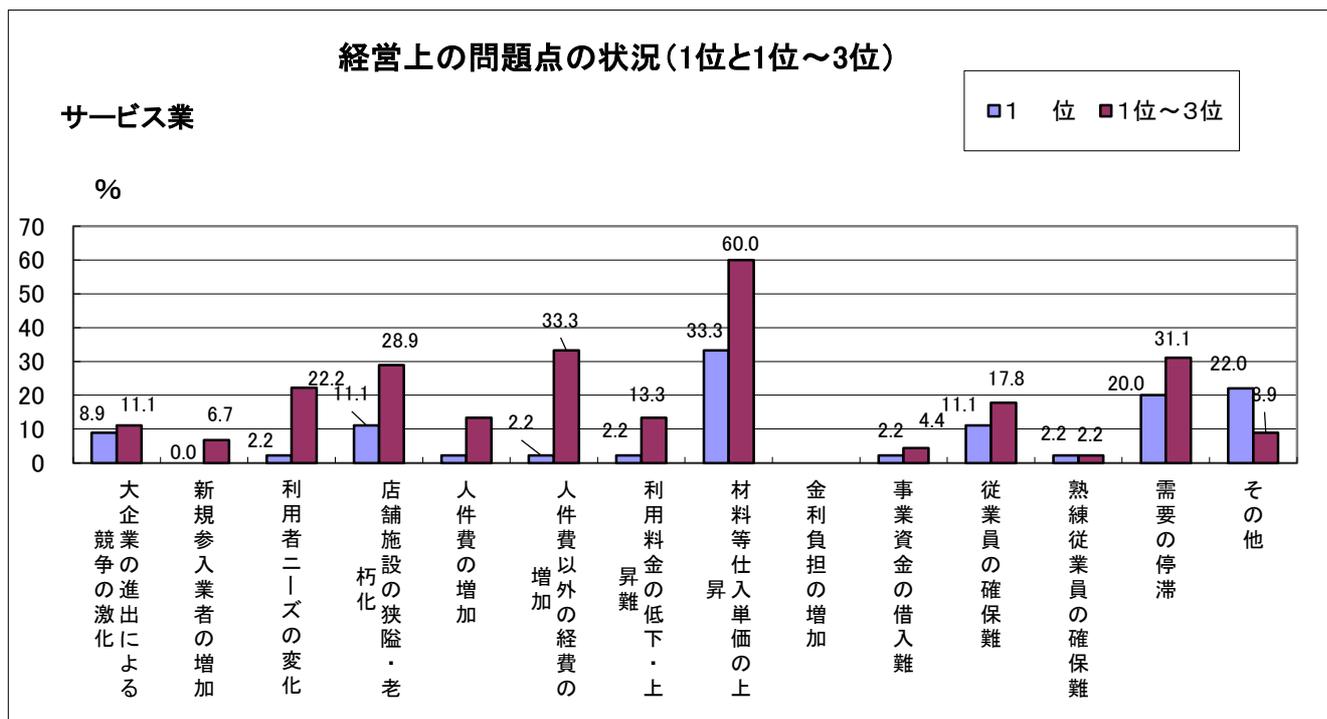
(4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は10.9%で、実際に実施した企業も10.9%と計画どおりであった。内容はサービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、12.7%との結果となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは、1位が「材料等仕入単価の上昇」で、2位が「その他」で、3位が「需要の停滞」となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「材料等仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」となっている。今回の調査結果でも、前回同様、「材料等仕入単価の上昇」が1位となった。



産業別主要景況項目状況

宮崎県商工会連合会

業種			実績					見通し	
			令和5年	令和5年	令和5年	令和5年	令和6年	令和6年	
			1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	
製造業	売上(加工)額	増加・好転	35.5	32.4	35.3	35.3	38.2	35.3	
		不変	48.4	35.2	44.1	44.1	38.3	61.8	
		減少・悪化	16.1	32.4	20.6	20.6	23.5	2.9	
		D・I値	19.4	0.0	14.7	14.7	14.7	32.4	
	採算(経常利益)	増加・好転	9.7	17.6	14.7	23.5	8.8	14.7	
		不変	54.8	58.9	58.8	53.0	64.7	70.6	
		減少・悪化	35.5	23.5	26.5	23.5	26.5	14.7	
		D・I値	▲ 25.8	▲ 5.9	▲ 11.8	0.0	▲ 17.7	0.0	
	資金繰り	増加・好転	6.5	8.8	9.1	11.8	11.8	14.7	
		不変	80.6	79.4	72.7	67.6	67.6	76.5	
		減少・悪化	12.9	11.8	18.2	20.6	20.6	8.8	
		D・I値	▲ 6.4	▲ 3.0	▲ 9.1	▲ 8.8	▲ 8.8	5.9	
	設備投資	計画	3.1	6.5	23.5	14.7	23.5	11.8	
実行		22.6	17.6	20.6	11.8	17.6			
建設業	完成工事(請負工事)額	増加・好転	9.1	21.1	15.0	30.0	25.0	20.0	
		不変	45.4	52.6	60.0	40.0	55.0	55.0	
		減少・悪化	45.5	26.3	25.0	30.0	20.0	25.0	
		D・I値	▲ 36.4	▲ 5.2	▲ 10.0	0.0	5.0	▲ 5.0	
	採算(経常利益)	増加・好転	4.5	26.3	10.0	5.0	5.0	10.0	
		不変	59.1	52.6	60.0	70.0	70.0	65.0	
		減少・悪化	36.4	21.1	30.0	25.0	25.0	25.0	
		D・I値	▲ 31.9	5.2	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	
	資金繰り	増加・好転	0.0	10.5	5.0	10.0	5.0	0.0	
		不変	90.9	73.7	80.0	75.0	90.0	90.0	
		減少・悪化	9.1	15.8	15.0	15.0	5.0	10.0	
		D・I値	▲ 9.1	▲ 5.3	▲ 10.0	▲ 5.0	0.0	▲ 10.0	
	設備投資	計画	4.5	4.5	15.8	15.0	10.0	5.0	
実行		9.1	10.5	10.0	15.0	15.0			
小売業	売上額	増加・好転	25.0	30.6	36.1	34.3	17.6	14.7	
		不変	55.6	47.2	38.9	51.4	55.9	70.6	
		減少・悪化	19.4	22.2	25.0	14.3	26.5	14.7	
		D・I値	5.6	8.4	11.1	20.0	▲ 8.9	0.0	
	採算(経常利益)	増加・好転	2.8	8.3	8.3	8.6	8.8	2.9	
		不変	80.5	69.5	63.9	71.4	67.7	76.5	
		減少・悪化	16.7	22.2	27.8	20.0	23.5	20.6	
		D・I値	▲ 13.9	▲ 13.9	▲ 19.5	▲ 11.4	▲ 14.7	▲ 17.7	
	資金繰り	増加・好転	0.0	2.9	2.8	8.6	8.8	5.9	
		不変	88.9	77.1	77.8	80.0	73.6	79.4	
		減少・悪化	11.1	20.0	19.4	11.4	17.6	14.7	
		D・I値	▲ 11.1	▲ 17.1	▲ 16.6	▲ 2.8	▲ 8.8	▲ 8.8	
	設備投資	計画	5.7	5.6	13.9	8.3	14.3	5.9	
実行		8.3	8.3	13.9	8.6	14.7			
サービス業	売上額	増加・好転	43.6	42.6	41.8	45.5	32.7	25.5	
		不変	32.8	35.2	36.4	38.1	47.3	52.7	
		減少・悪化	23.6	22.2	21.8	16.4	20.0	21.8	
		D・I値	20.0	20.4	20.0	29.1	12.7	3.7	
	採算(経常利益)	増加・好転	9.1	14.8	12.7	20.0	12.7	16.4	
		不変	67.3	61.1	67.3	63.6	67.3	72.7	
		減少・悪化	23.6	24.1	20.0	16.4	20.0	10.9	
		D・I値	▲ 14.5	▲ 9.3	▲ 7.3	3.6	▲ 7.3	5.5	
	資金繰り	増加・好転	13.0	11.3	3.7	3.6	11.1	11.1	
		不変	68.5	79.3	87.0	89.1	81.5	85.2	
		減少・悪化	18.5	9.4	9.3	7.3	7.4	3.7	
		D・I値	▲ 5.5	1.9	▲ 5.6	▲ 3.7	3.7	7.4	
	設備投資	計画	5.6	7.3	12.7	7.3	10.9	12.7	
実行		5.5	10.9	7.3	9.1	10.9			
産業全体	売上高		2.2	5.9	9.0	16.0	5.9	7.8	
	採算	D・I値	▲ 21.5	▲ 6.0	▲ 14.7	▲ 7.0	▲ 14.9	▲ 6.8	
	資金繰り		▲ 8.0	▲ 5.9	▲ 10.3	▲ 5.1	▲ 3.5	▲ 1.4	
	業況		▲ 11.6	2.5	▲ 10.5	4.5	▲ 8.6	3.1	

中小企業景況調査報告書

令和6年4月発行

宮崎県商工会連合会

〒880-0013

宮崎市松橋2丁目4番31号

宮崎県中小企業会館2階

TEL 0985-24-2055(代表)

FAX 0985-25-0036